

宜基渉第 34 号
平成 26 年 3 月 12 日

沖縄防衛局長 武田 博史 殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

米軍機の安全管理の徹底について（抗議・要請）

貴職におかれましては、平素より、本市の基地行政にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

市街地のど真ん中にある普天間飛行場は、その危険と騒音等の基地負担が大きいことから市は、早期閉鎖・返還を強く求めています。

昨年 4 月の統合計画によると普天間飛行場の返還まで早くても約 9 年を要することから、市は、沖縄県と連携し、普天間飛行場の 5 年以内の運用停止をはじめ危険性の除去策を早急に講じるよう求め、去る 2 月 18 日、官邸において「普天間飛行場負担軽減推進会議」が開催され、危険性除去に向け具体的に組みんでいくことを確認しました。

その様な最中、3 月 2 日、嘉手納飛行場に緊急着陸した MV-22 オスプレイの機体から着陸後に白煙が出るトラブルが発生し、4 日には訓練海域における F-15 ジェット戦闘機の風防落下事故が発生しております。さらに 6 日には AH-1W スーパーコブラが米海軍艦に着艦後、右側着陸スキッド及びクロスチューブ着陸装置の破損事故が発生し、また、別の AH-1W がトラブルにより種子島空港へ着陸するなど、今月に入り普天間飛行場所属機等による事故やトラブルが立て続けに 4 件発生しており、米軍の安全管理体制について強い疑念を抱かざるをえません。

航空機によるトラブルや事故は、直接人命や財産に関わる重大な事故に繋がる可能性が大きいことから、これまでも安全管理の徹底を求めて来ましたが、相次いでトラブルや事故が発生したことは市民に大きな不安を与えるものであり、大変遺憾であります。

については、これらのトラブルや事故について原因究明及び再発防止の公表とそれらの措置が講じられるまでの間の AH-1W の飛行禁止について貴局から米軍に働きかけていただくよう強く求めます。